

令和7年度後期 国際科に関する評価（アンケート結果 抜粋）

保護者アンケート

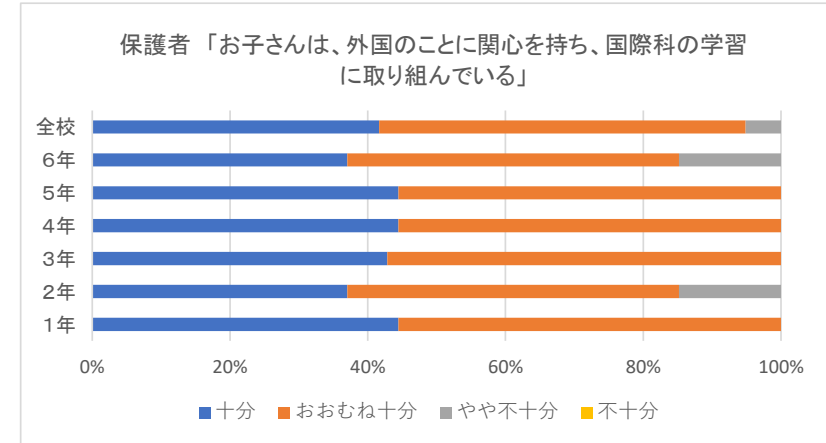
お子さんは、外国のことに興味をもち、国際科の学習に進んで取り組んだ。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
十分	12	10	9	12	12	10	65
おおむね十分	15	13	12	15	15	13	83
やや不十分	0	4	0	0	0	4	8
不十分	0	0	0	0	0	0	0

肯定割合	100	85.2	100.0	100.0	100.0	85.2	94.9
------	-----	------	-------	-------	-------	------	------

R6後期 90

R7前期 90

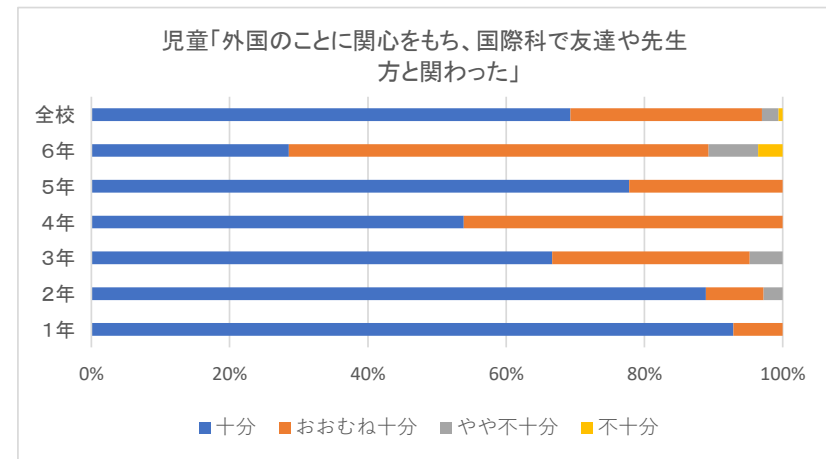


児童アンケート

外国のことに興味をもち、国際科で友達や先生方と関わった。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
十分	26	32	14	14	21	8	115
おおむね十分	2	3	6	12	6	17	46
やや不十分	0	1	1	0	0	2	4
不十分	0	0	0	0	0	1	1

肯定割合	100	97.2	95.2	100.0	100.0	89.3	97.0
------	-----	------	------	-------	-------	------	------



学校運営協議会

高い評価結果が続いている。志の取組や学校の努力の現れであろう。継続できるとよい。

1学期に中学年、2学期に低学年と高学年が行った「国際交流会」では、市内にある国際大学の学生をゲストに招き各学年で行いました。国際交流会に向け、交流会の場面でゲストと会話できるよう、学年の学習内容に合わせて話題にあった英語を事前学習しました。実際に、外国のゲストに通じ、会話のできたときの笑顔や照れた表情から、英語でのコミュニケーションの喜びを感じられたことが分かりました。少くも違っていて、忘れてしまっても、ゲストとのやりとりで分かってもらえたという経験をするのも、大切で、臆せず関わることをねらっています。国際理解教育、国際交流会、外国語活動を1年生から行い、会話を取り入れて双方向の学習となるよう工夫するとともに、学習指導要領に沿って、高学年では、「書き」にも力を入れた活動を大切にしました。

2学期の学校評価でも、保護者、児童ともに、肯定的評価が高い状況です。6年生では、小学校最後の学習参観や、6年生を送る会の発表などで、英語を使った発表やスピーチを多く取り入れ、ゴールの活動を明確にして取り組んだことで、必要感のある学習をすることができました。6年生後期は、発表練習に力を入れたことで、「かかわる活動」が少なかったことが数値に表れていると考えられます。